

# 特集

# 曾我物語

# 曾我物語

文学や歌舞伎の世界で有名な曾我物語。兄弟の親を思う気持ちと兄弟愛は、時代を超えて私たちの心を強く打ちます。

今回は、とら年生まれのお一人に、鷹岡地区を中心にお話をうかがいました。



兄・十郎



●曾我八幡宮（厚原）

幼い兄弟がいつか親のかたきをとろうと誓い合う像が立っています



（久沢）  
寺がある曾我寺。兄弟が仲  
薄かれています

曾我寺の隣で生まれ育ったので、お寺の境内は遊び場でした。よくめんこやこまで、日が暮れるまで遊んだものです。曾我物語の内容は幼いころ聞かなかつたけれど、曾我寺には親孝行で仲のよい兄弟が祭つてあることは知っていました。兄弟の命日は五月二十八日とされていて、毎年この日に近い土曜日に供養祭を行います。しかし、曾我寺に安置されている十郎の位牌には五月二十八日、五郎の位牌には五月二十九日に没したと記されています。兄弟は同時に処刑されたわけではないようです。

供養祭は七十年以上の歴史があり、奉賛会は地区の人たちと協力しながら祭りを盛り上げる手伝いをしています。特に武者行列は好評で、たくさん的人が見に来てくれますのでやりがいがあります。これからも、曾我兄弟を通して「親を思う心」「兄弟愛」の大切さを伝えていきたいと思います。

（久沢）大正15年生まれ

曾我寺奉賛会会長 芦澤秀雄さん

つか必ずあだ討ちをしようと思にかたく決めたのです。

数年後、卷狩りという絶好の機会がとうとう訪れました。青年に成長していた兄弟は、卷狩りの騒ぎに紛れ、父のかたき工藤祐経を討ち取ったのです。しかし、長年の思いは果たせても、鎌倉時代にあだ討ちは禁止されていたので、兄弟はそれぞれ処刑されてしまつたのでした。

しかし、兄弟一人で長年の苦難を乗り越えてのあだ討ち事件は、人々の同情や共感を呼び、文芸演劇の世界にまで広がっていきました。さらに、美男子で大柄だったといいう十郎と、踊り子でとても美しかつたといいう虎御前の悲しい恋愛もますます人情をあおることになりました。そして多くの人に脚色されながら、「曾我物語」として数々の遺跡とともに今に残っています。

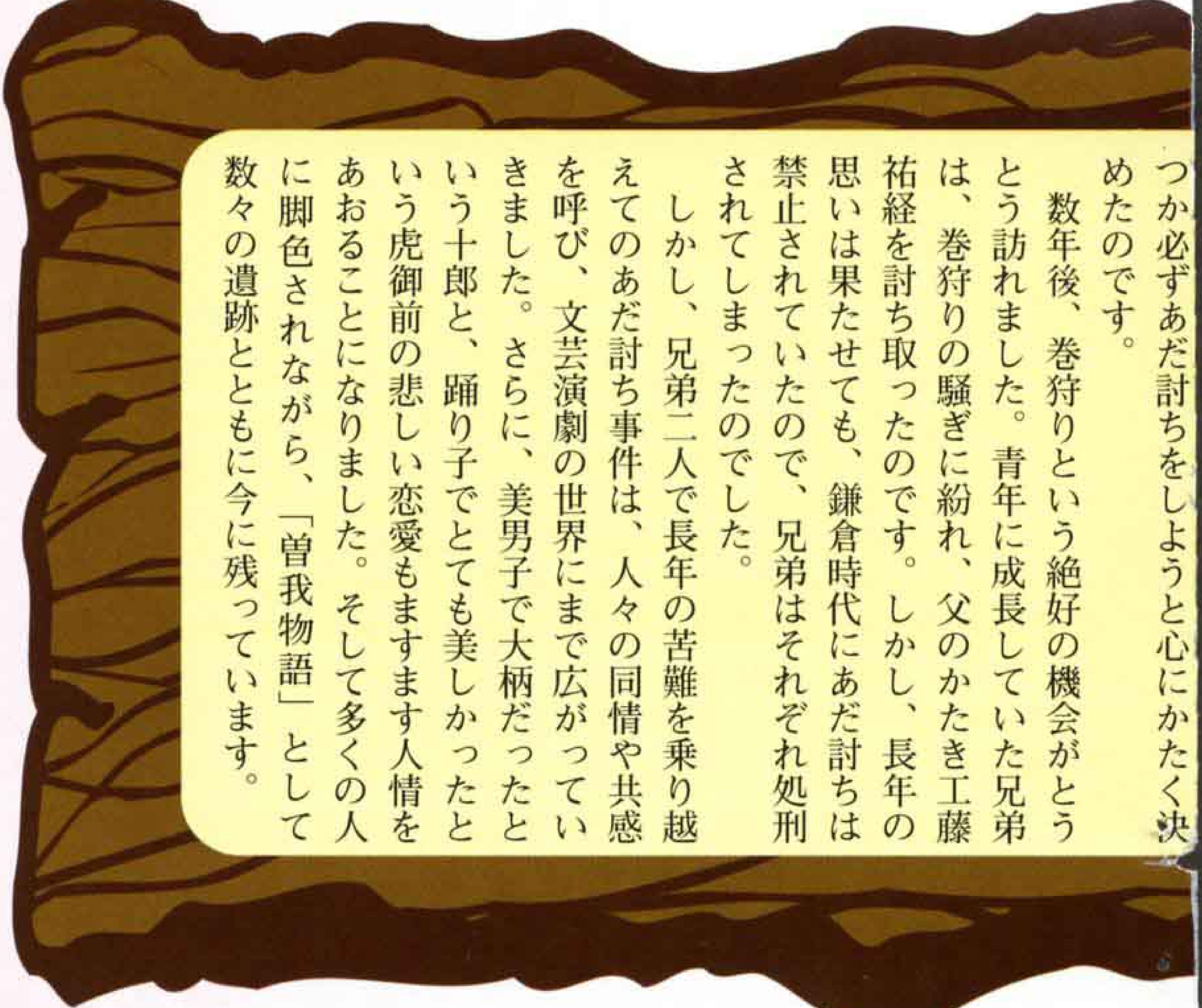


弟・五郎



### ●虎御前の腰掛け石（伝法）

十郎の恋人・虎御前が兄弟の悲報を聞き、崩れるように腰をおろした石が残っています



●曾我寺  
兄弟の菩提  
よく並んで



### ～お知らせ～

この曾我物語に現代風のアレンジを加えた市民創作ミュージカル「新・曾我物語 名残りの小袖」<sup>こそで</sup>が11月1日にロゼシアターで上演されます。

詳しくは広報ふじでお知らせしています。御期待ください。

小学生のころ、自由研究で曾我物語を取り上げたことがあります。知っているつもりでしたが、まだまだ物語の奥は深いですね。

女性としてはやっぱり、曾我物語のあ

だ討ちそのものよりも、十郎と虎御前の悲恋に興味を引かれます。

